

書店関係者をお願いするページ  
出版業界の物流改善……

## 図書館に本が並ぶまで

(株)紀伊國屋書店 京都営業部 課長代理 平本 敏道

私が書店に勤めて15年になります、インターネットの普及以降、本の情報についての入手速度は極端に速まりました。一方本の取寄せ自体は未だに遅く、データ面での進歩に流通が十分追いついていないのが実情です。

なぜ国内で出版された本が、すぐに入手できないのか。なぜ2週間、ひどいときは1ヶ月もかかるのか。では、本はどのような流通経路で図書館に納品されるのでしょうか。

書店と出版社を仲介する「取次」に在庫がない、東京の出版社の本ですと、次のようになります。出版社～「取次」本社～「取次」京都支店～書店～図書館。この中で毎日定期便が往復しているのは、一部の出版社と「取次」～書店間のみで、その他は週1-2便程度です。

流通経路でみると、仮に「取次」がなければ納期は短縮されるように思われます。しかし「取次」が担っている物流、即ち出版された本を全国何万店に及ぶ書店に発送するコストは莫大で、それを自社で負担できる出版社はありません。従って「取次」なしに出版界は成立しません。

また、入荷が遅い原因は、単に流通経路の複雑さだけに留まりません。まず店舗と外商部門と分けて書店の流通を見てみますと、店舗在庫は来店される顧客用のもので、我々外商部門への注文は従来から「取次」や出版社在庫の取寄せが中心でした。

しかし多くの出版社は新刊書の販売に依存しており、店頭で置けなくなった既刊書については売残り扱いというわけでもないでしょうが、外部の倉庫会社などに在庫管理を委託している場合が多いようです。従ってどうしてもその取寄せに時間がかかってしまいます。

一方「取次」はできるだけ商品を店頭で置くことを指向しているため、その在庫は限定され、注文品の多くは出版社からの取寄せになってしまいま

す。従って店頭ではすぐ手に入るものが、「取次」にも在庫がなく、外商部門への注文でなかなか入荷しないというケースが多々発生します。

つまり、日本の書籍流通は店頭販売を基本に、出版社から店舗に如何に効率的に配布するかの視点から構築されたもので、店舗とは別組織の外商部門の流通については十分考えられていなかったと言えます。それでは現在どのように改善されつつあるのでしょうか。

弊社の場合、上記のような店舗中心の流通基盤を活かすことから始めました。全国に展開する主要各店舗の豊富な在庫を活用するため、発注管理システムと連動した単品管理システムを構築しました。これにより弊社店頭で在庫がある場合は、「取次」も出版社も仲介せず店舗から弊社物流センターに入荷しますので納期は大幅に短縮されます。また、店舗に在庫があるのに注文した本がすぐ入荷しないケースも改善されました。

もちろん店頭で在庫がない場合は、入荷が遅くなりますが、全国に展開している大型店舗の在庫量は、弊社の最大の強みです。

ただ弊社のネット書店(BookWeb)をはじめ一般顧客向けサービスと比較すると、我々外商部門の場合は納期が遅くなる点、否めません。その理由は、本の入荷後に請求書作成を始めとした個別附帯業務等、法人向けサービスに対応しているため、この点だけはやはりマンパワーに頼るほかになく、より迅速な処理を心がけています。

一方業界全体で見た場合、弊社を始め最近のネット書店の台頭により、物流改善により動きが出て参りました。

「取次」の客注専門倉庫及び物流の設置(日販Webセンター、トーハンブックライナーなど)です。これは店頭販売中心の物流からの転換を意味しており、現在弊社もこれに応じた最適の物流ルート構築を目指し更なる改善に取り組んでいる所です。



ひらもと としみち